

もう一度、
生きてみようと
思った

坂口香津美
監督作品

晝 暁 光

Heartbeat

Shokou

黒沢あすか
森山太
染野有来
田中爽一郎

娘を自殺で喪った母親は、
「命の門番」となって
歩むことを決めた

監督・撮影・編集 坂口香津美 / プロデューサー・編集 落合麗子 / 音響子サイン / 今泉徳人 / 宣伝美術 小澤菜穂 / 英語字幕 白神愛紀子 / 撮影技術 アトバイサー 長谷川貴士
音楽協力 藤原日本交響楽団 日本コロムビア / スタジオエフ / スクウェア・エフ / スキ / サライオ / 演奏 若生麻理奈 / 編集協力 長谷川敏行
特別協力 白浜ヒメキューネット / クラーク 藤敷庸一 藤敷亜由美 寄宿生活塾 はじめ塾 和田正宏 / ツー・ワン・ア・ソング / リバー社 / タワトル / オウゴンズ
製作・配給 スーパーサウルス (2018年 / 日本 / 120分 / シネマスコープ / 英語 "Heartbeat") shokoumovie.com





本作を観て、問われたのは、「それでもあなたは助けるか？」だ。
藤藪庸一（白浜レスキューネットワーク理事長・白浜パブテスト基督教教会牧師）

「他人事としてほっておいていいのか！」
「曙光」はこの問いかけを
これでもかこれでもかと
私に投げかけてきた。

篠原鋭一（自殺防止ネットワーク理事長
長寿院住職）

自殺を止める理由は
どのようなものなのか、
その後の彼らの人生を
どこまで保証すべきなのか。
人を助けた人間は
その人間の人生のどこまで
責任を持つべきなのか。
人を救出することの難しさが
リアルに描かれている。

鹿島田真希（作監）

システムティックな
自殺予防活動の
隙間を埋めるような、
一縷の希望が
あるのかもしれない。
斎藤環（精神科医）

「曙光」の衝撃的な結末は、
この問題の絶望的な閉塞感を
象徴しているように感じる。同時に、
ドキュメンタリー以上にリアルな
登場人物の「命への愛」には
確かな希望も感じた。
自殺は「そのほとんどが
防ぐことのできる社会的問題」である。
若者が命を放棄しない社会を作るには
どうしたらよいか。
映画『曙光』を若者たちに是非観てもらいたい。
自らの命を感じるために。
斉藤くるみ（日本社会事業大学教授）

文絵は明らかに未熟だ。
では、未熟者は
自殺しようとしている人を
救えないのか。
救ってはいけないのか。

堀江政生（朝日放送テレビアナウンサー）

曙光
Shokou

自殺志願者に直接手を差し伸べる”命の門番”に光をあてた、愛と喪失の衝撃作

文絵は13年前、中学生の娘を自殺で失った。その後、息子とともに山間にある実家に戻り、自殺しようとする人の保護・救助活動を行っている。しかし、自殺直前まで追い詰められた人が、死を思い留まり、もう一度生き直すのは容易ではない。ある夜、自殺しようとする男を救助したことから、文絵の人生は一転、根底から激しく揺り動かされる……

監督・撮影は、これまで200本以上のTVドキュメンタリーを作り続けてきた映像作家・坂口香津美。

映画『ネムリユスリカ』（ロッテルダム国際映画祭正式招待）、『夏の祈り』、『抱擁』（文化庁記録映画部門優秀賞、東京国際映画祭日本映画スプラッシュ部門正式招待）など、逆境に生きる人々の姿を独自の視点と映像美で表現している。

坂口自身もまた、35歳の時、交際していた女性の自宅で、彼女の元交際相手の首つり自殺の現場に遭遇し、自殺が身近な人々に与える精神的打撃の強さを身をもって経験した。

20年後、自殺救助活動を続ける和歌山県の白浜レスキューネットワーク理事長で牧師の藤藪庸一さんと出会う。

この体験が08年後、夫婦をモデルとした本作へと結実。人間の生と死の根源を問いたがす衝撃作が誕生した。

主演の黒沢あすか（『六月の蛇』、『冷たい熱帯魚』）が、娘を自殺で亡くし自殺救助活動を通じて命と向き合う母親役を熟演、新境地に挑んだ。

黒沢あすか 森山太 染野有来 田中爽一郎

東京湾ジロー 狩野美彩子 順堂静葉 谷川俊 倉田英二 乃美斗 長友誠 沙羅 木島尚志 月城由莉 山下直 新倉真由美 橘はるか 橘真紀 藤原薫 勝又啓太
石塚瑛資 関正行 袴田駿一 若生麻理奈 伊藤宗文 有瀬賢治 関彰文 龍ともこ 九茂咲紅蘭 小島怜珠 西畑慶吾 下村明日子 川口敦子 渡邊けい子
小田貴之 尾上正幸 杉崎洗太 吉田之仁 吉田夏海 杉川新 久保瑠衣香 吉田幸子 龍之介 瀬戸口薫乃 福田英和 田村幸士 清水陽乃介 笠原竜司

監督・撮影・編集 坂口香津美

プロデューサー・編集 落合篤子 録音 山本研二 照明 田中爽一郎 制作 狩野美彩子 音響デザイン 今泉徳人 宣伝美術 小澤菜穂 英語字幕 白神愛紀子
撮影技術アドバイザー 長谷川貴士 テクニカル・アドバイザー 関本仁 音楽協力 読売日本交響楽団 日本コロムビア スタニスラフ・スクロヴァチェフスキ
ヴァイオリン演奏 若生麻理奈 なげいれ花指導 杉崎宗雲 ロケータリング 命を大切にす小田原を創る会 絵画提供 青木外司 編集協力 長谷川敏行
特別協力 白浜レスキューネットワーク 藤藪庸一 藤藪亜由美 寄宿生活塾はじめ塾 和田正宏 クリーク・アンド・リバー社 タブルフォックス 協力 遠州茶道宗家
日本アコースティックレコーズ アウローラ・クラシカル Motiongallery 東京葬祭 青木画廊 東京ロケーションボックス 撮影機材協力 ソニービジネスソリューション
カルツァイス センハイザー・ジャパン サンディスク メディアリース レンタルスクエア 製作・配給 スーパーサウルス(2018年・日本・120分 シネマスコープ 英題「Heartbeat」)

10月6日(土)より
《命を見つめる》ロードショー!

全国共通前売り鑑賞券¥1,500(税込) 絶賛発売中

当日料金：一般¥1,800

以降、シアターセブン（大阪）、ガーデンズシネマ（鹿児島）ほか全国順次公開

UPLINK
渋谷

東京都渋谷区
宇田川町 37-18
トツネビル1階
tel. 03-6825-5503

